

教員名 後藤こず恵

企画名
神戸イノベーターズグランプリ(神戸プリン) 研究演習 I

商品開発型/地域活性化型
イベント企画型/情報分析型
企業



企画・活動概要

<主なイベント>

9/28(土)開会式

10/16(水)本社・工場見学会

11/30(土)中間プレゼンテーション会

1/11(土)最終プレゼンテーション会

研究演習 I を受講している学生16名が参加し、3チームを編成して参加した。
3チーム中、2チームが決勝に進出し、1チーム(上部写真)は特別賞を受賞した。

様々な課外活動と調整しながらゼミ活動の時間を確保したり、LINEやメールを活用して来れないメンバーがいた時にも情報共有ができるように工夫するなどして期間を通して全員が一定の関与を保ったまま活動することができた。

経緯・背景・目的

ゼミ活動では商品企画のプロジェクトに参加し、マーケティングの考え方に触れながら消費者のニーズを理解して課題を探り当て、それに対する解決方法を企画立案し、プレゼンテーションや企画書などでわかりやすく提示することを目指す。特に研究演習 I では消費者ニーズを理解する能力を高めるためにマーケティングリサーチを精緻に行うようにし、企画書の根本となる問題意識の醸成に時間を多く費やして取り組んだ。

取り組む課題

後藤ゼミBチーム・・・映画館に着目した新しいコラボ商品の提案<神戸プリンチュロス>
プリンアラモード∞・・・親子のコミュニケーションに着目したギフト商品<神戸プリン〜結〜>
後藤JAPAN・・・家飲み習慣に注目した新しいコラボ商品<神戸プリンチップス>

本学(学生)の役割

(株)トーラクの抱える課題に対して学生ならではの観点から新たな解決方法を提案する。

活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

後藤ゼミBチーム・・・当該チームは教員の指示を待つことなく主体的に活動に取り組むことができた。特にリサーチについてはその方法をいち早く習得し、多くのデータを集めて提案内容の根拠を得ることができた。また、ターゲット顧客にアプローチする方法として映画館の広告(シネアド)に注目し、独特の視点から新たなブランド・コミュニケーションの方法を提案することができたと考える。

プリンアラモード∞・・・当該チームは授業時間以外にも多くの時間をゼミ活動に充てるなど、精力的に活動し、試作品の作成など冬休み期間中にもしっかりと取り組むことができた。また、プリンとは直接的には関係のないように思える中高生の親とのコミュニケーションについて調査し、そこで得られた知見とプリンの持つ属性を合わせて新しい商品を提案することができた。また、販売者であるコンビニエンスストアの店長のヒアリングを行って問題意識を醸成した点も評価できる。

後藤JAPAN・・・当該チームは中間プレゼンテーションで審査員の先生方から得られたコメントについて真摯に取り組む、大幅な改良を加えて最終的な提案内容を作り上げて言った。中間プレゼン以降の大幅な路線変更は多忙を極めたが、より良い提案内容にしたいという思いを強く持って取り組めたように思う。その結果、授業時間外にも多くの時間をゼミ活動に充て、統計資料を活用した市場規模の推定や本格的な試作品の作成を行うこともできた。

指導教員および関係者の紹介

指導教員 後藤こず恵

参加学生 井戸下 優奈、岩瀬 太陽、福田 凌平、向 流星、山本 尊生、吉川 太都、井上 由理、大志万 詩菜、小梅 浩一朗、小河原 愛美、中井 玲緒、西海 愛、細谷 駿斗、水野 綾香、村田 智春、吉田 樹生
協力企業 (株)トーラク

